

今日の眼疾患治療指針 第4版

大路 正人, 後藤 浩, 山田 昌和, 根岸 一乃, 石川 均, 相原 一 編

本書は医書の超ベストセラーである医学書院出版の『今日の治療指針』の眼科版であり、専門性の高い眼科の分野に特化して明日の臨床に役立つように、2000年に初版が刊行された。以来眼科医のバイブル、あるいは一冊は欲しい眼科の診療分野での疑問をすぐに解決できる他科の先生のバイブルとして使われてきた。眼科医はもちろんのこと、他科の先生にとっては診療中、あるいは明日の診療のために今必要な事項を調べることが必要となる。本書は、(1) 眼科全般の分野を網羅した662にわたる項目、(2) 平易な文章で図が多く、ビジュアルで具体的、(3) 最新の情報が載せられている、(4) 執筆者がその分野の第一人者である、(5) 索引が英語、日本語とも充実している、などの特長があり、座右におかれる一冊としてはこれ以外にない。内容が詰まっている割にはハンディなA5サイズのままである。

このたび、第3版が出てから早い改訂となったが、進歩が著しい眼科領域に追従するためである。第4版では大幅に改訂がなされ、さらなる変貌を遂げた。まずは、執筆者に active な臨床眼科医が選ばれていること。その数は310余名に上っている。専門分野の眼科医を検索するための辞書としても用いられるかもしれないほどである。次に、カラーを用いた写真や、機器のメーカーが明示されていることで、読む・見る人に使いやすくなっていることである。さらに、近年抗VEGF薬や緑内障治療薬などが登場し、眼科薬物療法が新しい展開を示していることを受け、第2章の治療総論に「薬物治療」が新設されている。おそらく出版の直前まで改変を行ったと思われる、超最新の情報を載せている。

内容を詳述してみよう。第1章の検査総論では、付(付録)としていろいろな視力の測り方の統計処理法

について簡単に述べられている。小児の視力測定における屈折検査ではオートレフケラトメータでの検査の写真とともに4つの視力測定法の特徴が書かれている。付の瞳孔間距離測定や眼鏡に関する検査の項目などは眼鏡処方が苦手な眼科医にとってさっと読める導入書としても役立つ。

眼科医が苦手とすることに、ぶどう膜炎の診療がある。「第8章 ぶどう膜疾患」では、冒頭に「ぶどう膜炎の鑑別診断表」が掲載されている。座右にあれば5~6秒で、患者さんを前に、自分の疾患の想定に落ちがないか、検査を考えるうえで忘れていた病気はないか、などのリマインドができる。よくある疾患では診断基準が載せられているのもありがたい。画像診断や表でまとめられた鑑別診断、さらには具体的薬剤名で書かれた処方例は即座に「今日の眼疾患診療」に役立つ。

私の専門である網膜疾患については、未熟児網膜症の新分類や、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症におけるOCT angiography 所見、抗VEGF治療など最新の情報が掲載されていることは言うまでもない。さらに、われわれが重要視すべき「ロービジョンケア」に関して新章が設けられ、検査から最新の補助具まで紹介されている。

本書を他科の先生に眼科のバイブルとしてぜひお勧めするとともに、これから第一線で活躍する若い先生方、またこれまでも本書を活用されてきた先生方にも、ぜひ手に入れられることをお勧めしたい。

名大未来社会創造機構特任教授・眼科学
寺崎 浩子

A5・頁1184 2022年09月
定価：28,600円(本体26,000円+税10%)
[ISBN978-4-260-04807-1] 医学書院刊